私の一言。

愛夢☆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私の一言。

【Ｎコード】
Ｎ００７９Ｎ

【作者名】
愛夢☆

【あらすじ】
川岸　まりは同じ剣道部の富田（とみだ）　秀（しゅう）のことが好き…。
でも、なかなか告白ができないまりの後押しをしてくれる友達の由香（ゆか）。
でも、秀が好きなのは由香！？
これぞ、まさしく三角関係！この関係にまりの、心もずたずた。
そんなまりに告白してくる先輩の亮（りょう）…。
自分の心が分からないまり…。
甘く切ない青春物語。カナ？笑〝

ウジウジなんてしてられない！

「今日は快晴！雲ひとつ無い完璧な晴れ模様となるでしょう。」

はあー…快晴か。私の心と正反対。
それもそうか…。
好きな人が海外に行ってるんじゃ無理か。

私、川岸　まり。好きな人と会えない夏休みを
過ごしています。
好きな人……富田（とみだ）　秀（しゅう）くん。
頭がいいから今はアメリカに行ってるんだ。
うちの学校では夏休みに学校代表で7人が
アメリカに毎年行くんだ…。
海外派遣ってやつ。

「はあー。最悪な夏休み…」
せっかく秀君と同じ剣道部だから、
夏休みの間も会える！…と思ってたのに…。

秀君は剣道もピカイチで、1年の時からレギュラーだったんだ。
私はもちろん初心者だから、今も下手くそ…。
今日もこの後から練習があるけど…「行きたくないなー。」
あ…。つい、本音が出ちゃった。秀君がいないとつまんない…。

ピーンポーン♪

「まりー！クラブいこ！」
「ちょっと待って、由香！」
慌てて靴下をはいて、かばんを持ち
玄関を飛び出す。
「まり遅いよ！それより、昨日のテレビ見た？面白かったよね！！」
「うん、見た見た！私爆笑しちゃった。」
この子は、安斉（あんざい）　由香（ゆか）。同じ剣道部で
とっても気が合う心友なんだ。
そして、私の好きな人を知ってる唯一の友達。

「ねえ、まり。もうすぐ秀君が帰ってくるんでしょ？」
「うん…。あさってには、帰ってくるけど？」
「それじゃあ、空港まで迎えに行ってあげれば？
剣道部代表ってことでさ！」
「え！なんで私がそんなこと…」
「だって、まり秀君のことすきなんでしょ？なら、頑張っていきなよ！」
「……うん…分かった！私あさってに空港まで
秀君を迎えにいってくる！」

　そうだよね！いつまでもウジウジしてられない。
そうだ！！なにか簡単なお菓子を作っていこう！

そして2日後、秀君が帰ってくる日…。
クラブは運良く休み。
結局お菓子は、シュークリームを作った！
喜んでくれるかな？

「あ！秀君。」
ちょうど、秀君が飛行機から出てくるのが見えた。

まだ、由香には言ってないけど
今日、私は『告白』しようと
決めていた。

告白なんて初めてだけど…
私はただ、秀君に自分の気持ちを
知ってもらいたい。
私の大切な気持ち……。

ウジウジなんてしてられない！（後書き）

はじめまして！愛夢☆でーす。
やっと、1話目かんせい♪（＾∀＾）

さあ、とうとう秀に告白しようと決意したまり。
果たしてまりは、秀に告白できるのか？
そして、秀の答えは…。
2話目もよろしくお願いします☆

告白とその後。

秀君に言うんだ。
私の大切な気持ち…。

空港から出てくる人々。
その人ごみの中に…
いた！
秀君が見えた。

思いきって、声をかける。
「富田君！」
「あれ、川岸さん？久しぶりだね。
でも、どうしてここに？」

「富田君、久しぶりだね…。
こ…これ、私が作ったの。
おかえり、富田君！」

富田君に作ったシュークリームを渡す。

「ありがとう。俺シュークリーム好きなんだ！」

秀君の笑顔…
鼓動が変に速い…。

そして私たちは、誰もいないベンチで
何分か部活のことについて話した。

剣道のことになると真剣に話す秀君…。
やっぱり好き……

今しかチャンスは無い！

「あのね、富田君。私、きょう来たのには訳があって…」
鼓動がまた速まる。

「ん？なに？」

「私ね、富田君のことが…すき…なの。」

驚く秀君…
恥ずかしくて下を向く私…

少しの間、無言の時間が流れた。

「えっと…すごくうれしい…。ありがとう」
ゆっくり話し出した秀君。
え？ということは、ｏｋなの？

「……でも、ごめん。」

パリン。
私の胸の中で、なにかが割れた…。

「…そっか。そうだよね、いきなりごめんね。」
「ああ…でも、川岸さんの気持ちは本当に嬉しかったよ。」
「うん。ありがとう・・・じゃあ、ばいばい。」
「ばいばい。」

秀君はベンチから立ち上がると、荷物をもって
歩き出した…。
私はずっと秀君の後ろ姿を見てた。

秀君の姿が見えなくなるころには、
私の目には涙が溢れそうなくらい溜まってた…。

川岸　まり。
中学1年生で初恋。
中学2年生で初失恋。

短い恋でした…。

私はそのまま家に帰った。
悲しみをと一緒に…。

―次の日―
ピーンポーン♪

「まり、おはよう。昨日のお迎えはどうだった？」
「うーん。喜んでくれたよ。」
「よかったね！」
由香に告白のことは黙っておこう…。

そして部活が終わると
秀君がこっちに来た…。
「よ！おつかれ。」
いつもと変わらない秀君。
明るい笑顔と、剣道着がよく似合うんだ。
あっ！
秀君と目が合っちゃった…。

なんだか妙に胸が痛い。

「なあ、安斉と川岸さんって仲良いんだね。
いっつも一緒にいるよね。」

あれ？
いま秀君、由香のことは呼び捨てなのに
私のことは「さん」付け…。
由香と秀君って仲良かったっけ？

こんな少しのことが気になるんだね。
本当なら昨日で秀君のこと、
諦めるつもりだったのに…。

やっぱり…好き…。

「…さん」

「川岸さん！きこえてる？」

「え？あ、すいませんキャプテン！ちょっとボーっとしてて。」

この人は前河（まえかわ）　煉（れん）先輩。

剣道部のキャプテンでとってもかっこいいんだ。

「で、キャプテン。なんですか？」

「あのさ川岸。この後って空いてる？

一緒にかたずけ手伝ってほしいんだけど…いい？」

「はいはい。私は雑用ですか。」

笑いながらも２人で剣道場のかたずけ。

ただ、かたずけながらも秀君のことが

頭に浮かんでくる。

「あのさ、川岸って秀のこと好きだろ？」

「え？先輩、なんでそのこと…」

何で先輩が？

告白とその後。（後書き）

こんにちは！愛夢☆です。
勇気を出して告白するまりとその気持ちに答えられない秀。
そして、そのことをなぜか知っている煉。

なんとなくの三角関係！？
次回も読んでくれたらうれしいです♪

大好き。

「川岸って秀のこと好きなんだろ？」

「え？何で先輩がそのこと…。」

何で先輩がそんなことを知っているの？

「もし、本当に秀のことがすきなら、

あきらめたほうがいい…。」

「な…何で先輩がそんなこと言うんですか？

今のは、ひどいです！別に私が誰を好きだっていいじゃないですか！」

ついカッとなる私。

「じゃあ、川岸にだけおしえてやるよ。

秀が好きなのは…安斉なんだ。」

「え…」

チクリ。

胸に何かが刺さったみたいに痛い…。

「先輩…それって本当なんですか？」

恐る恐る先輩に聞いてみる。

「ああ、本当だよ。まあそういうことだから。」

先輩はそういうと、
かたずけを終わらせ、
私にバイバイって言うと帰って行っちゃった…。
その場に固まる私…。

信じられない。
昨日、秀君が私を振ったのは
由香が好きだったからなんだ…。

一次の日ー
昨日の先輩の言ったことが本当なら…
私は秀君を諦めたほうがいい。

そして、由香と秀君の恋を応援しなくちゃいけない。
胸が痛い…。
まさか、秀君の好きな人が…私の心友だなんて…。

今日は由香に
「おなか痛いから先に部活行っててもらってもいい？」
なんて、　嘘ついちゃった。

由香と一緒にいるとなんだか負ける気がした…。

結局、部活自体には行ったけどまだ由香とは
一言もしゃべってない…。
このまま部活が終わればいいのに…

「はい！今日もお疲れ様でした。
もうすぐ、大会も近いのでメンバーを発表したいと思います。
えー個人の部から、
男子の部……そして富田、前河。以上
女子の部……そして安斉、川岸。このメンバーで
今回の大会に出てもらう。
3年は引退まで1ヶ月をきったので
しっかりがんばるように！」

私、初めて選ばれちゃった！がんばらないと。
「まり！おなか大丈夫？私たち選手に選ばれたね！
お互いがんばろう。」

「あ…。由香、朝はごめんね。もう大丈夫だから…じゃあバイバイ」
「え？由香…。どうかしたの？」
私はその場から逃げるように
走り出した。

私…最悪だよね。
由香は何も悪くないのに…。
こんなの由香に奴当たりしてるだけじゃん・・・

すばやく着替えると私は由香を
待たずに剣道場を出た。

仲良くしゃべってる秀君と由香を見るのが
つらくて胸が苦しかった…。

私、もう由香と心友じゃいられないのかな？

だめだよね…。こんなに無視してるんだもん。
由香のこと好きだけど、
一緒にいると胸が痛い…。

ごめんね由香…。

私…秀君のことも
諦めるから…。

「おーい！川岸。」
あれ？向こうでさけんでるのって煉先輩？

なにかな？
もしかして、昨日の話の続き？
いやだな…。

とりあえず先輩のいる所まで走った。
「なんですか？」

「どう？秀のことあきらめた？」

「何で先輩はそんなに

私の恋の邪魔をするんですか？
そんなに人が失恋するのがおもしろいんですか？」

あ…私、先輩にまで奴当たりしちゃった。
「ごめん…
俺、川岸がそんな風に思ってるんなんて知らなかった」

「私こそすいません。」

「俺…お前が入部してきた頃から気になってたんだ。
でも、お前がいつも秀のことばかり見てるから…
秀が安斉を好きなのは本当だけど、
別に秀じゃなくても…その…

俺じゃだめ？…かな？」

「え…？先輩。」

それって…。

「返事はいつでもいい…。
でも、ゆっくりでいいから、秀じゃなくて
俺を見てほしい……」

その話はそれで終わった。
家に帰っても胸がドキドキしてる…。

秀君が好きな気持ちと
先輩からもらった気持ち…。

もやもやする。

ベッドにダイブして気持ちを晴らそうと思ったけど、だめだ…。

頭がごちゃごちゃしてて、大会どころじゃないよ。

……でも、私が秀君のことを諦めれば。

―次の日―

「まり、おはよう！

昨日はどうしたの？げんきなかったね。」

「うん…。それより由香…

私、秀君のこと諦めることにしたんだ」

「あ…まり、そのことなんだけど

私ね。昨日秀君に告白されたの。」

あ…やっぱり秀君は由香のことが好きなんだ。

諦めて良かった…。

「そっか…おめでとう！由香。

私のことは気にせずに今日から一緒に帰ったら？」

「え…？まり、私と秀君が付き合っていいの？

だって、まりは…」

「いいの！私も新しい恋見つけたから。」

由香は優しい…。

その後、私が誰を好きになったかは聞かなかった。

「まりがすきな時に言って。」って

言ってくれた。

後は私が先輩に言うだけ…。

「はい！今日の部活はここまで。

おつかれさま。

水分補給を忘れずに！！」

今しかチャンスはない。

「先輩！お疲れ様でした。

あの…この後少し、いいですか？」

「おつかれ！うん。全然いいよ。」

また、２人きりの剣道場。

「あの、先輩…

私も『すき』です！

よろしくお願いします。」

秀君…。私に恋を教えてくれてありがとう。

先輩…。もうすぐで引退だけど、これからも好きです。

川岸　まり。

夏休みの間に2つの甘く切ない恋を経験しました。

そして少し、大人になりました。

ー3年生の最後の部活ー

「……ということで、今日で俺たち3年は引退します。

最後に、男子キャプテンと女子キャプテンを発表します。

男子は、富田　秀。

女子は、川岸　まり。

しっかり剣道部を引っ張ってくれ！」

私は3年生の引退試合で、個人の部・3位という成績を残した。

それで、女子キャプテンに選ばれた。

先輩がいないと不安だけど
秀君や由香と一緒にがんばっていく！

それに、私が不安になったときや
分からないことがあったら

大好きな先輩が
すぐに飛んでくるから…。

「今日の天気は快晴！太陽が1日中出るでしょう。」
3ヶ月前まで私の心と正反対だった　『快晴』という言葉…。
でも、今は私にぴったりの言葉。

それも全部大好きな仲間がくれた宝物…。

「みんな。」

「ん？まりどうしたの？」

「大好き！」

由香と秀君と煉先輩。
私の気持ちを変えてくれた大切な人…。

何度言っても飽きない言葉。

大好き！

大好き。（後書き）

こんにちは！愛夢☆です。
とうとう、完結しました。だいぶ強引にですが…（汗；

やっぱり最後はハッピーエンドですね♪
まりと煉。由香と秀。
これはこの話で終わりですが
また、違う話を書きたいな★なんて思っています。
これからも愛夢☆の作品を見つけたら
読んでください。

でわでわ、また違う作品で会いましょう！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0079n/

私の一言。

2010年12月11日14時15分発行